



令和3年11月29日 第11巻(第2号)

発行：東京都新宿区住吉町8-20 四谷チンゴビル2F

災害支援チーム TEL (03)3351-5038

FAX (03)5366-1058

Mai: dsstsw@jaswhs.or.jp

## もくじ

### ◇ 巻頭言

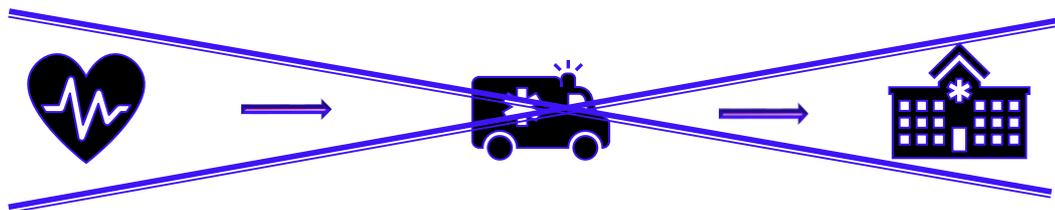
1. 石巻市情報1(近況報告)
2. 石巻市情報2(遺構 大川小学校)
3. 石巻市情報3(復興住宅訪問で見たこと)
4. 災害支援チームからのお知らせ
5. 災害支援ニュース発行のお知らせ

編集後記

## 新型コロナウイルス 終息を期待して

6波(新変異株)に備えて最大限の予防継続必須!!

マスク・消毒・手洗いはいつでも最大の予防です。



◇ 巻頭言

\* \* \* \* \*

災害支援チーム 統括責任者 笹岡 眞弓

\* \* \* \* \*

東日本大震災から 10 年を経ました。つい先日、石巻に行った日に 10 年 8 か月を経て、ご遺骨を息子さんにお渡しすることができた、旨のニュースが流れました。まだ 47 人の方が、身元不明で警察が捜査を続けているとのこと。震災が与えた大きな被害の後遺症はまだまだ続いていることを実感しました。

支援の終息はもちろんあります。当初はやはり 10 年の節目に支援を終結することを予定していました。フォーラムの予定についても準備を始めていました。しかし、コロナの猖獗<sup>しょうけつ</sup>の前に 2 年ほど、石巻在住の当協会職員であるソーシャルワーカーの活動も影響を受け、アウトリーチも少なくならざるを得ず、もちろんフォーラムも延期しています。

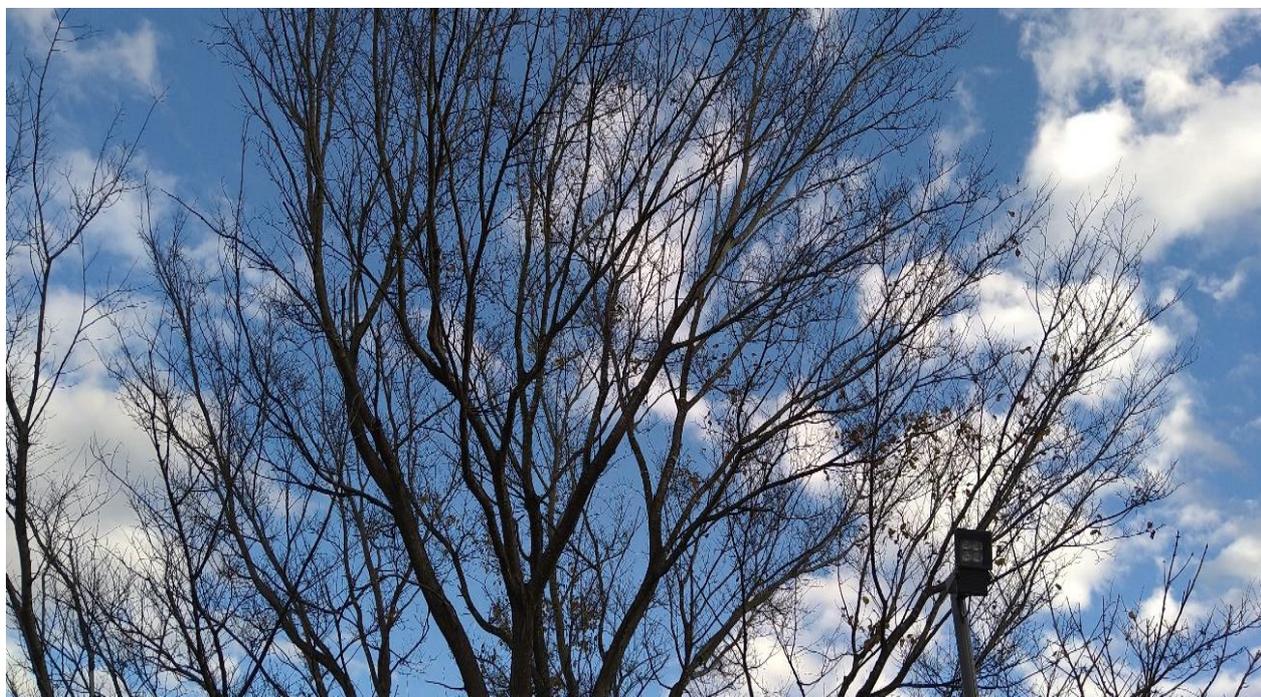
終結の時期を延期したのは、行政からの要請があったことも要因のひとつです。地域のソーシャルワークを涵養<sup>かんよう</sup>し、システムを開発して社会福祉協議会を中心に地域にこうした活動を移譲していくために、当協会における石巻支援活動を 2024 年 3 月 31 日まで続けることを、理事会で確認をしました。

ここに、皆様にご報告申し上げます。



## 1. 石巻市情報 1 (近況報告)

石巻事務所 現地責任者 福井 康江



間もなく師走となり、今年も慌ただしく過ぎようとしています。

秋に入り、コロナ感染もひと段落となり、少しずつですが地域でのイベントやサロンが動き出す様子を感じ、「皆に会えるのはやはりいいね。」との声が聞かれています。

しかしながら、今後年末年始を迎え、人流が増える時期となることや、冬に入り風邪やインフルエンザが流行する時期とも重なることから、再び全国的に感染拡大が心配される声も挙がっています。石巻現地での活動では、訪問や集団の場に入ることも踏まえ、引き続きなお基本的な体調管理や予防には日々心がけて行きたいと思えます。

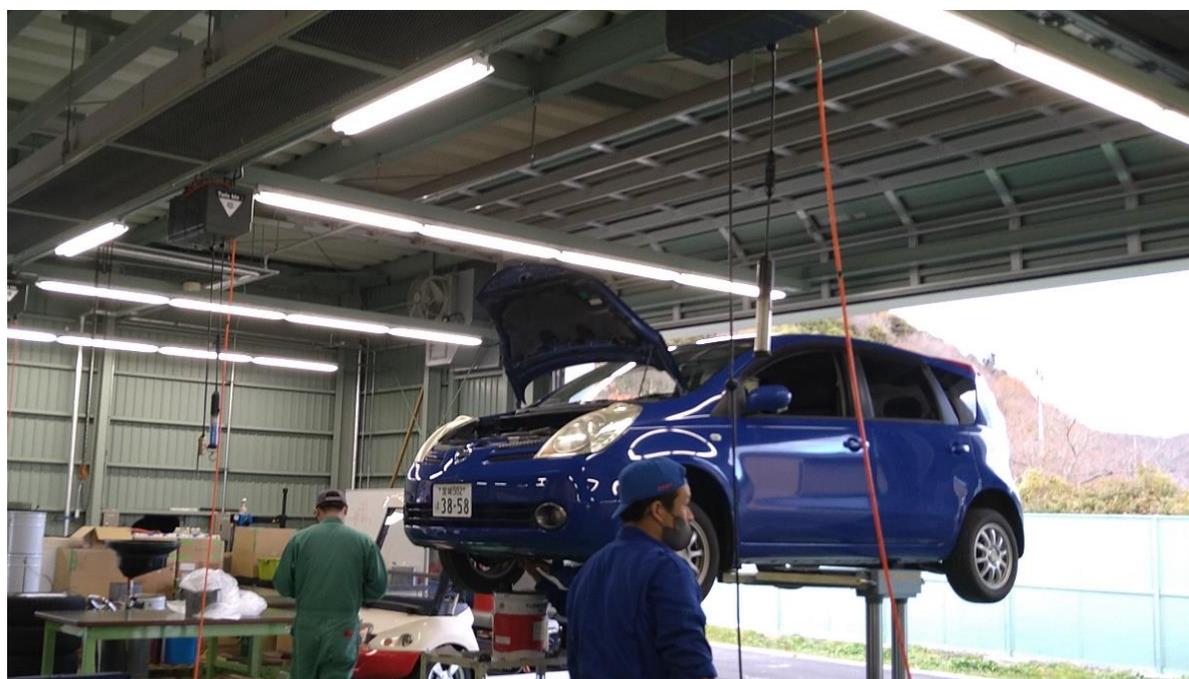
さて、今年度は以前より報告をしている通り、みずほ福祉助成財団からの社会福祉助成金を受け、この10年に渡る被災地におけるソーシャルワーク研究を進めておりますが、みずほ福祉助成財団は、みずほファイナンシャルグループが支援する社会貢献財団の一つでもあります。ご承知の通り、その基盤であるみずほ銀行は今年の大河ドラマの主人公である、渋沢栄一氏が設立した第一国立銀行からつながる金融機関です。氏の活動を知るほどに、現在の私たちが、その社会貢献、社会事業の精神につながらせていただいていることに、非常に感銘を受けています。

渋沢栄一氏は東京養育院（現東京都健康長寿医療センター）等の福祉事業、後に日本赤十字となる博愛社創設への尽力、東京慈恵医院（現東京慈恵会）の財団化等の医療事業への尽力、

女性教育の分野では日本女子大学の創設への支援や校長として着任されています。また、中央慈善協会（現全国社会福祉協議会）の初代会長ともなっており、福祉という概念がない時代に経済の発展と共に、現在にもつながる社会活動、慈善活動に寄与されていました。また、その中でも特に大きなつながりを感じる活動の一つは、東京大震災における活動です。自宅を避難所にしながら、救護・復興に関する組織を提案し、「罹災者救済及び経済復興」を目的とする大震災善後会を設立しています。渋沢栄一氏の活動を知る中で、多種多様なものたちが力を合わせることで、反対に分かち合うことをとても大切にされていたことを学ばせてもらいました。

災害の後やコロナ禍の中であればこそ、力をあわせること、わかちあうこと、その重要性を身をもって感じており、自分なりに工夫しながら実践し続けて行きたいと思っています。

出典参照：[公益財団法人 渋沢栄一記念財団 \(https://www.shibusawa.or.jp\)](https://www.shibusawa.or.jp)



2年ぶりになりますが、カーシェアリンク協会による学生整備プロジェクトに参加し、専修大学構内で冬のタイヤに交換をしました。

着々と冬支度を進めています。



### 2030年以後 車の仕様は？

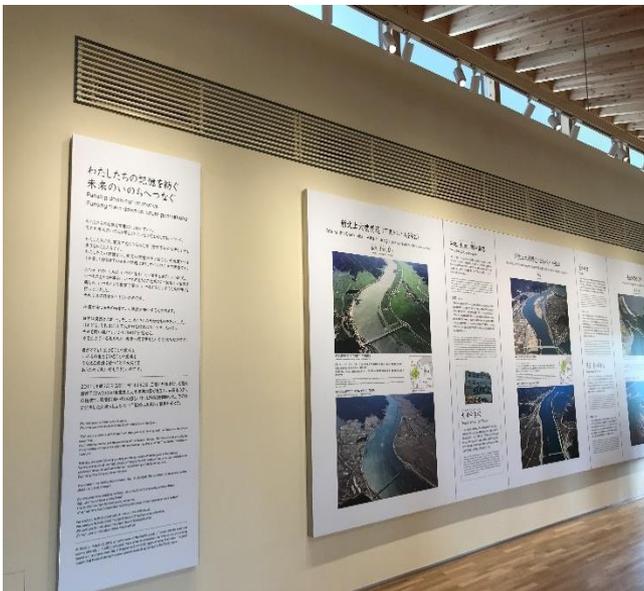


## 2. 石巻市情報 2 (遺構 大川小学校)

石巻事務所 現地担当 軍司 智之

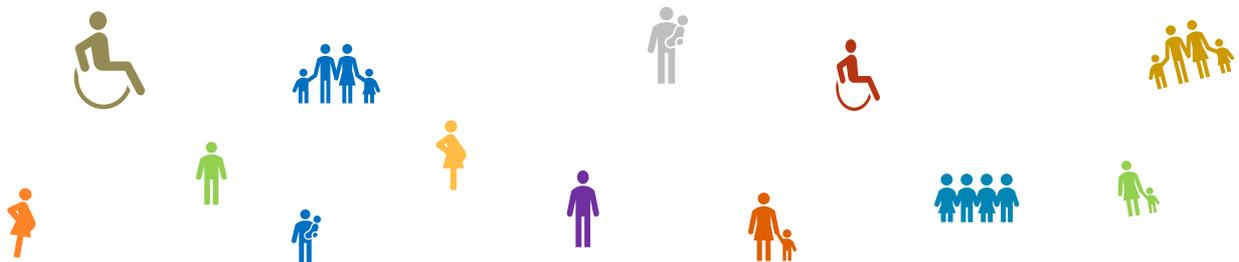
石巻市震災遺構 大川小学校の敷地内に7月18日より「大川震災伝承館」が一般公開されました。

震災当日の地震発生から大川地区に津波が到達するまでの出来事やその後の裁判等に関する資料が展示されています。



地震発生から津波が遡上してくるまでの様子や元々の大川地区の地形等のパネルが展示しており、被災前と被災後の風景の違いに愕然としました。

海から3.7 km離れていた大川小学校ですが、津波の高さは8.6mにもなり、川から遡上した波だけではなく、瓦礫等にせき止められて溢れ出た波が大川小学校をのみこんだそうです。



海拔わずか 1.1mの大川小学校の校庭…  
震災さえなければ、児童はこの一輪車で校庭  
を目いっぱい走り回っていたらと思うと  
言葉になりません。



小学校に津波が到達した時刻で時計の針は  
止まったまま…  
避難のため移動を開始したのは 15:36。  
津波到達の 1 分前だったのです。

明治 6 年 <sup>あいのう</sup> 桃生郡 <sup>なまへ</sup> 釜谷小学校として開  
校した大川小学校。

2011 年 3 月 11 日の東日本大震災  
により児童 74 名、教職員 10 名の方  
が犠牲となりました。

校舎のいたるところに津波の痕やそ  
の威力を物語るように床が盛り上がっ  
ていたり、支柱が折れ曲がった状態が  
そのまま残されています。



時が経過したことが早かったのか、遅かったのか…東日本大震災から 10 年経過したが、私には早かったのか、遅かったのかは分からない。事実として「あの震災は何だったのか」と整理がつかない思いが今なお続いています。

校庭に立った私は「時の経過が何かを解決してくれただろうか。」と自問自答し始めました。心と景色を見渡し、校庭に残された色鮮やかに描かれた壁画の中に人と人が手を取り合っている姿が描かれている片隅に「未来を拓く」の文字に目がとまりました。

「未来を拓くために前に進むしかない」自問自答し堂々巡りだった思考がようやくまとまった瞬間でした。



【資料】

- ・石巻市震災遺構 大川小学校ホームページ

[https:// www.city.ishinomaki.lg.jp/okawa/index.html](https://www.city.ishinomaki.lg.jp/okawa/index.html)



QR コードより閲覧できます。

- ・冊子「小さな命の意味を考える」

リ



未を考える会/一般社団法人 Smart Supply Vision

<https://smart-supply.org/store/chiisanainochi>



### 3. 石巻市情報 3 (復興住宅訪問で見えたこと)



石巻事務所 現地担当 松本 桂子



4 月に入職し半年が過ぎました。現在の活動内容は、主に復興住宅に居住する方の相談援助です。

復興住宅に訪問しお話をうかがっています。対象者の方との面談において、地域のことや近隣住民の方の話題に及ぶことがあります。近所の方がおかずを分けてくれる、趣味の場所に行

くと会える友達がいるなど、それまで知らなかったその方のつながりを聞かせてもらうことがあります。その他に、友人の家がごみ屋敷状態になっているとか、近所に問題を抱えた家庭がいるなどの話を聞くこともあります。

支援側の人間として、単身独居の方は心配と勝手に決めつけて、本当のその人の地域でのつながりや強さを知らずに関わっていたなと気が付かされたり、はたまた、石巻市の人口からするとわずかな数でしかない当協会の対象者の方から、友人の家がごみ屋敷化しているとの話を聞いたりすると、心身の不調等でごみ屋敷になり、相談機関につながらず困っている方は少なくないのかもしれないと思わされたりします。

私たちが関われる方はごくわずかですが、日々の関わりの中で、住民の方々の力を知り、地域や近隣の情報を寄せてもらえる存在でありたいと思います。そして、住民の方々や他の支援者と共に、暮らしやすい地域を作る一助になればと思っています。



## 4. 災害支援チームからのお知らせ



### 【1. 書籍販売】

- 『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ』
- 『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ』
- 『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅢ』
- 『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅣ』

の販売を行っています！



発災から 2011 年 9 月 30 日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害対策本部の活動の記録を『バトンⅠ』に、2011 年 10 月から 2012 年 12 月までの災害対策本部、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、現地 SW との協働の記録を『バトンⅡ』に、2013 年 1 月から 2014 年 3 月までの災害支援チーム、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、虐待防止センターでの支援・石巻市社会福祉協議会での支援、現地 SW との協働の記録を『バトンⅢ』にまとめました。

そして新たに、この 5 月下旬に『バトンⅣ』を発行いたしました。

2014 年 4 月から 2016 年 3 月までの災害支援チーム、石巻市での復興公営住宅への入居支援・仮設住宅被災者自立生活支援・グループワーク支援・市民活動支援の記録です。

尚、売り上げの全額を皆様からの寄付として、本活動の資金にあてさせていただきます。

※ご注文は注文用紙で承ります。(注文用紙はホームページからダウンロードできます)

バトンⅠ:URL: [http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing\\_detail.php?@DB\\_ID@=45](http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=45)

バトンⅡ:URL: [http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing\\_detail.php?@DB\\_ID@=50](http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=50)

バトンⅢ:URL: [http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing\\_detail.php?@DB\\_ID@=54](http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=54)

バトンⅣ:URL: [http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing\\_detail.php?@DB\\_ID@=59](http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=59)



## 【2. facebook】



現在不具合のため、  
当 facebook への情報掲載は休止中です。



## 5. 災害支援ニュース発行のお知らせ

次回発行予定

令和 4 年 3 月

### ◇ 編集後記

西田 知佳子

10 月、11 月と石巻訪問。次第に東京駅のホームに人が多くなり、活気づいてきました。新幹線の乗客数も増え、平日お昼出発の“こまち”でも 9 割の乗車率でした。が、大きな声で話す人は居ず、車内は静かでした。夕方東京に向かう車内でも、ビールを飲みながら仕事の話をしている出張帰りのグループは見当たらず、時々聞こえるのは子どもの声だけでした。このような多くの人々の協力によってコロナ患者の数が減少し、私も石巻に定期的に通えそうです。

この 10 年に石巻支援に関わった多くの SW の記録を拝見しています。どれだけ皆さんが困難の中で丁寧な支援をしているか、頭が下がります。中には途中で終わっている記録もありますが、短い期間に沢山のことをしながら記録を書くことの大変さはよくわかります。これからの災害支援の時には、移動しながら車の中で音声記録をし、それを本部が整理し、ご本人に確認してもらうなどという IT を駆使しての災害支援記録も考えなければならないと思います。